

# 発電室内灯でも20%増

リコーは最大出力を2割高めた太陽電池を開発した。室内灯でも発電できるのが特徴。氷点下でも動作するため、冷凍庫内のセンサーなど幅広い用途に使える。発売は5月下旬の予定で、工場や物流倉庫などに売り込む。リコーは2020年に複合機の技術を使った太陽電池事業に参入しており、23年度までの黒字化を目指す。

新型電池の最大出力は長さ5センチ、幅8センチの大きさで276ワット（ワットは100万分の1）だ。暗い場所でも発電でき、作動する温度帯を

## 暗所・幅広い気温で使用可

従来のセ氏0〜50度からマイナス30〜プラス60度に広がった。高温の工場や低温の物流倉庫内のセンサー電源としての使用を想定する。

製造の効率化や品質向上のため、生産ラインや物流工程にセンサーを付けてリアルタイムでデータを取得する企業が増えている。従来はセンサーの電源にボタン電池を使うケースが多かった。あらゆるモノがネットワークでつながるIoTの普及でセンサーが増え、電池交換の手間が課題だった。

リコーが開発した太陽電池は「色素増感型」と呼び、微弱な光からも電気を得られる。複合機に使う感光体の技術を基に、電解質に液体を使わなくても効率的に発電できるようにした。液漏れがなく、長時間の稼働が可能だ。透過パネルでも発電できるという。今後より

照明のパネル上でも発電が可能になる

発電できるという、今後より

